

手指骨骨折の治療における真のゴールを目指し、 理想的で新たな外固定スタイルを選択

新潟県西区内野地区に位置する「内野整形外科クリニック」。今回は、同院院長で整形外科医の佐野博繁先生に、手指の骨折における機能障害を残さないことの重要性についてのお話を通して、フィットキュア・ナックルのメリットについてうかがった。



内野整形外科クリニック
院長・整形外科医
佐野 博繁 先生

【ご経歴】

自治医科大学卒業

【取得専門医】

- ・日本整形外科学会専門医
- ・日本リウマチ学会専門医
- ・日本骨粗鬆症学会認定医
- ・日本リウマチ学会登録
ソノグラファー など

【所属学会】

- 日本整形外科学会
- 日本リウマチ学会
- 日本骨粗鬆症学会 など

手指骨骨折の基本的な治療方針 機能障害を残さないことが真のゴール

はじめに、手の基節骨、中手骨の骨折の治療に関する基本についてうかがいました。

「基本的に手指骨骨折の治療は、下肢など他部位とは異なり、骨癒合のみでなく機能的な実用性の再獲得が、重要な目的の一つとなります。一部例外はありますが、原則、肘から遠位の骨折の場合、解剖学的整復位を目指すことが基本です。その上で、アライメントの不良や機能的障害を残さないようにするのが理想的と考えます。少し詳しくお話しすると、手の基節骨や中手骨の骨折な